

東京都立小松川高等学校令和6年度第77回卒業式式辞

東京の桜も開花を間近にし、日一日と春めいています。

3年生の皆さん、卒業、おめでとうございます。ご来場の保護者の皆様、本日はお子様のご卒業おめでとうございます。今年も保護者の皆様に卒業式にお招きすることができ、大変うれしく思います。思えば107期生の皆さんは中学校と高校入学後も感染症防止から、制約のある学校生活を送ってきました。その中でも、色々な活動に取り組んでいた皆さんの姿が印象に残っています。

部活動では運動部の試合や文化部の発表、学校行事や探究学習でも間近で活動する皆さんの一生懸命な姿に触れて感動していました。また、昨年度は修学旅行で沖縄に行きました。最終日はホテルで待機した生徒とミニツアーを実施しことを鮮明に覚えています。「修学旅行は一生の思い出になり、大切な人を連れて行ってください」と結団式で話しました。沖縄を皆さんの大切な場所にしてください。

3年生の2学期は面接試験の対策として、面接練習をしました。どの生徒も自分の考えをよくまとめ、一生懸命答えていました。小松川の生徒の誠実さを感じさせてくれました。

3学期も希望の進路実現に向けて頑張りました。2月になっても、コマホールや教室で勉強し、3月になっても教室で勉強する生徒がいて、最後まで頑張りました。

そのような皆さんに、はなむけの言葉を2つ贈ります。1つは、「自分は自分の主人公 世界でただひとりの 自分を作っていく責任者」
教育者・東井義男（とういよしお）さんの言葉です。

「世界でただ一人の私を、どんな私に仕上げていくか。その責任者が私であり、皆さん一人ひとりなのです。」という意味です。なりたい自分に仕上げて行ってください。

もう1つは、「一日一生」です。禅宗に由来する言葉です。一日を一生のように大切に生きるという教えを表しています。この言葉を調べると、ほかにも意味のとりえ方が紹介されていますが、皆さんには一日一日を大切にしてほしいと思います。

最後に、本日、ご列席の東京都議会議員・田の上いくこ様、上田玲子様、原純子様、学校運営連絡協議会、同窓会、PTA、PTAOB会の皆様、ありがとうございました。皆様のお祝いのお気持ちと、3年間を労うお気持ちは卒業生に届いていることと思います。学校を代表してお礼申し上げます。これからも、小松川高校への変わらぬご支援をお願いします。

以上をもちまして、私からの式辞とします。

令和7年3月14日

東京都立小松川高等学校長
北江 繁治